

RI2820地区

水海道ロータリークラブ



ロータリー：
変化をもたらす



2017-2018年度 RI会長 イアン H. S. ライズリー氏

例会予定 8月 2日 研究会報告・新会員卓話・・・内村尚史会員 大堀和久会員
8月 9日 月間に因んで 松坂興一会員増強委員長

VOL. 55 No. 4(通算No. 2523)

2017年 7月26日(水) 例会プログラム

- 点 鐘
- ロータリーソング
- ビジター紹介
- 出席報告
- S A A 報告
- 諸 報 告
- 幹 事 報 告
- 会長挨拶
- 研究会報告



2017-2018年度 会 長 石 塚 克 己 幹 事 倉 持 功 典

創立 1963年9月25日

《例会場・例会日》

〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町 2790
常陽銀行水海道支店内 3F

毎週 水曜日 12:30~13:30 ☎0297-22-1251

《事務所》

〒303-0023 茨城県常総市水海道宝町 3386
釜久ビル 3F

Tel.0297-30-0875 Fax0297-30-0876

E-mail mitsu-rc@lapis.plala.or.jp

URL <http://www.mitsukaido-rc.jp/>



本例会での主な事項

◎会長挨拶

◎各委員会事業計画発表

諸 報 告

秋田政夫前年度社会奉仕委員長

常総市役所より復興の道しるべの概要とDVDが送られてきました。事務所で保管し、何かの時に役立てて頂ければと思います。

幹 事 報 告 倉持功典幹事

週報受理クラブ なし

例会変更通知 なし

会 長 挨 拶 石塚克己会長



恒例の水海道祇園祭が土日に行われました。会員の皆様の中にも運営に関わられた方もいらっしゃると思います。お疲れさまです。シャッター通りなどと、何かと揶揄される水海道の中心街は大賑わいの2日間、同様に地域の小学校学区の子供会神輿祭りも行われました。下校後や休日、子どもの遊ぶ姿がすっかり消えた私の地域でも久々に元気な声が聞こえ、嬉しくも思いました。大切なものを次世代に残し、伝えていくという祇園運営スタッフ、子供会PTAや保護者の心意気が伝わり、まさに郷土の誉れ(ほまれ)、地域財産を感じる2日間となりました。

さて、この1週間、引き続き青木清人ガバナー補佐、セクレタリーの石井さん、古矢さんが分区内訪問、また五木田裕一委員長、染谷秀雄会長エレクト、倉持幹事におかれましては青少年奉仕研究会、クラブ奉仕研究会へのご出席、お疲れさまです。

次週は研究会の報告を宜しく願いいたします。8月第4週例会にはセクレタリーによる分区内訪問感想をお願いしております。楽しみにしています。

会長あいさつも年40回と数えれば、まだ3回であります。残り37回もあるわけです。

ポールハリスは『ロータリーは自己修練の場であると。研鑽して職場や地域社会に持っていくのが真髄である』と回顧録で述べられています。日本のロータリー創始者、米山梅吉氏はロータリーの例会を『人生の道場だ』と捉えています。

同様に私がロータリアンとして尊敬する一人、故鈴木豊さんは2003年2月26日での会員卓話において『自己修練の場と捉えている』と話されていました。会長就任して第2週の挨拶で『きょうがもう2回目か、38回しか残っていないではないか。何と勿体ない』仰っていたことが今でも胸に残っています。

『まだ3回か、残り37回も』でなく『もう3回か、残り37回しか』本当はそのようなアグレッシブな姿勢や気構えを見習わなくてはと思いますが、1回1回の例会、尻を叩いていくしかないと思います。人生修練として。(笑)

先週の例会終了後にプログラム委員会の皆様と3か月、前期内容の打ち合わせを行いました。「全員野球」というスポーツ語がいろいろな分野で引用されていますが『会員の皆様の声や考えをもっとたくさん聞きたい、ロータリーのこと、職業や趣味のこと、卓話や発言の場を少しでも多く持っていただきたい』総論でした。

先週に続き、委員会事業計画発表になります。どうぞ委員長さんにおかれましては宜しく願い申し上げ、会長挨拶とします。

2017-2018年度 委員会事業計画

青少年奉仕委員会 五木田裕一委員長



当委員会は、以下のような活動を通じ次世代を担う青少年の健全育成のため活動してゆくことを計画しております。

1. ライラセミナーへの参加推進
2. ガールスカウトへの助成
3. 茨城県立水海道第二高等学校マルタ会に対し支援等の検討

なお、50周年記念事業として埋設したタイムカプセルについて、忘れずに次年度へ引き継ぎたいと思います。

一年間、よろしくお願い申し上げます。

ロータリー情報委員会 秋田政夫委員長



本年度は早、クラブ創立 55 周年を迎えることになりました。

思い起こせば5年前、半世紀50周年記念行事を挙げて未来への奉仕の思いを記念誌に託しました。

本年度、情報委員会はロータリーの原点、理念を思い起こし、奉仕の形が時代の変遷と共に進化、変化していく中でクラブ定款、細則を基本にさらに「魅力あるクラブ、奉仕活動」について全会員参加型の会議を持ちたいと思っています。

在籍年数バランス良く、いくつかのグループに分かれてクラブの中長期的なクラブの展望を見出すことが出来る事業になれるよう努めたいと考えています。

宜しくご協力をお願い致します。

選考・分類委員会 長塚 暁委員長



当委員会は、会員増強委員会と連携を密にして、新会員の社会的評判、職業上会員としての確実であるかどうかをよく検討し、決定内容を理事会に報告します。

また、職業分類に関しては会員の増強と共に未充填項目の減少に努めていきたい。

奉仕プロジェクト委員会 松崎隆詞委員長



奉仕プロジェクト委員会は、4大奉仕委員会の職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕とのパイプ役になり、連携し各委員会の事業に協力を図ります。

社会奉仕委員会 染谷正美委員長



社会奉仕委員会は今年度の活動に、一昨年の関東・東北豪雨により甚大な被害を受けた常総市の復興事業の中で、「幸福イッペー常総市」をテーマに公共施設に南米特産のイペー（イッペー）の植樹事業を、市と共同で行いたいと考えています。

この事業は復旧、復興においてハード面とともに市民が一丸となり、前を向き歩き出すソフト面の取り組みです。ブラジル等南米からの人たちが県内で最も多く住んでいることなどから異文化交流のシンボルとして、地方創生への活力となるようお願い、さらに次世代を担う子供たちに受け継がれることを願っています。

次に、継続事業となっている常総市、つくばみらい市の高齢者のよるグランドゴルフ大会への協賛事業、また赤い羽根募金等を社会福祉に役立てられるよう活動をしていこうと思います。

出席委員会 五木田利明委員長



当委員会では、「例会の出席」を前提に無断欠席を無くし、お弁当の無駄を無くすと共にロータリアンとして各委員会等に積極的に参加して頂くことを目指し、以下の内容の活動・実践してまいります。

1. 出欠の確認（お弁当の無駄を無くしたい）
2. 各事業への積極的な参加呼びかけ
3. メークの見直しをし、出席率の向上を目指したい

国際奉仕委員会 鈴木勝久委員長



近年よく耳にする、いわゆる「グローバル社会」においては、ヒト・モノ・カネの流動性の高まりにより「国境」の意義が曖昧となり、各国の相互依存が複雑に深化しています。

このような複雑化した国際社会において活躍できる人材の育成や人的交流は必要不可欠と思われまます。

特に人材育成に関しては、語学力・想像力・発信力を養うことが重要であります。その一方で日本では少子化や海外に対する内向き志向が問題となっております。

そのような中で、当クラブは今まで継続事業であるオーストラリア・ツウンバとの交換学生の事業を中心に取り組んでまいりました。

しかし、上記のような国際社会の複雑化、また少子化等の問題を考えたときに、人材育成・人的交流の重要性を中心に考えながらも、新たな国際交流の形も必要なのではないかと考えています。

そこで本年度は、交換学生の事業は継続しつつ、新たな国際奉仕事業を模索していけるよう、クラブ内で新たな学びができるような事業を提案していきたいと思っております。

本年度事業計画

1. ツウンバRCへの短期交換学生の派遣
2. ツウンバRCからの短期交換学生の受け入れ
3. 2820 地区国際奉仕委員会による海外奉仕プロジェクトの協力・参加
4. 国際奉仕に精通した方をお招きしての卓話

ロータリー財団 二本松恭行委員長



皆様からの温かいご寄附に支えられ、ロータリーはこれまで世界中の人々の生活を向上させる活動を行ってきました。

ロータリー財団へのご寄附はこれからも平和の推進、教育の支援、疾病予防と治療、地元経済の成長、水と衛生施設の提供といった活動に役立てられます。ロータリーの現在の活動を支援する年次基金はシェアシステムと呼ばれる仕組みを通じて、3年後にクラブの奉仕活動や人道的プロジェクトなどの活動を支える補助金に生まれ変わります。

ロータリー財団 101 年目をスタートし、地区目標を掲げました。

1. 寄付数値目標、1人当たり 150 ドル(内訳:年次寄付 130 ドル、ポリオへの寄付 20 ドル)
2. 恒久基金(ベネファクター)1000 ドル 各クラブ1名以上

この目標は保延輝文ガバナターの掲げた目標であり、地区の目標であります。

従いまして、地区内一人一人の責務であり、ロータリアンとしての証でもあります。

米山記念奨学会 島田 勝委員長



米山記念奨学会は、勉学研究を志して日本に在留している外国人留学生に対し日本全国のロータリアン(ロータリークラブ会員)の寄付金を財源として奨学金を支給し、支援する民間最大の奨学団体です。

特色として、奨学金による経済的支援だけでなく、ロータリークラブ独自の世話クラブとカウンセラー制度による心の通った支援です。

目的は、将来母国と日本との懸け橋となって、国際社会で活躍する優秀な留学生を奨励する事です。

そこで、地区及び会長の方針に沿って、次の項目を挙げ活動していきたいと思えます。

1. 米山記念奨学会への支援、特別寄付1人当たり20,000円以上をお願いする。
2. 今年度も前年度に引き続き奨学生、バルガス メサ・シャナットさんのカウンセラーを海老原会員にお願いする。
3. 米山奨学生に例会出席はもとより各種行事にも参加して頂き、会員との交流を深めるよう働きかける。
4. 例会時卓話を依頼する。
5. 米山の歴史及び理解を深めて頂くため、米山記念館への研修を企画する。

IT・広報委員会 武藤康之委員長

IT とは、インフォメーションテクノロジーの意味です。直訳すると情報技術という事になります。今さらながらですが、近年のそのインターネットの発展は目覚ましいものがあります。我々の世代では、到底理解できないネット社会が大変なスピードで毎日進化を遂げています。「功罪相半ばする」という言葉がありますが、はるかに功の部分が多いからこそ、IT がここまで人間社会に広まった事は紛れもない事実だと考えられます。

上記の事を踏まえ、当委員会の今年度事業を以下に列記します。

・情報伝達のスピードと正確さ

クラブホームページと地区のホームページを閲覧することで、最新の情報が得られる事を会員に周知 PR をする。

・データの保存と応用

各種記録やデータを年度ごとに保存する事が容易な為、それらを応用し次期年度に活用する。

・お知らせやイベントの告知

各委員会の開催や委員会同士の交流、また地区内クラブ内のイベントの案内を分かり易く告知する。

・地域に対してロータリーの活動やメンバーの紹介を積極的に行う。

出席報告 五木田利明委員長

会員総数	出席者数	欠席者数	出席免除	メイク	出席率
52名	41名	11名	0名	3名	84. 62%

ニコニコボックス 大澤 清委員長

入金計 ¥21,000 累計 ¥270,000

100%出席表彰 白井会員

先週に引き続き委員会事業計画報告宜しくお願ひ致します。 石塚(克)会員

毎日暑い日が続きますが、なんとか気合を入れて乗り切りましょう。 倉持会員

園田さんのグローバル補助金が決定しました。 石井会員

暑い日が続きます。熱中症にご注意。社会奉仕委員会本年度もよろしくお願ひします。 染谷(正)会員

祇園際、お疲れ様でした。 大澤会員

その他 大堀会員

早退します。 五木田(裕)会員

例会欠席しました。 染谷(昭)・鯉沼・鈴木(勝) 各会員

会報委員会 福田克比古委員長 荒井孝典副委員長 内村尚史委員

